

国際・災害対策委員会 基本方針（案）

国際・災害対策委員会 委員長 船津 和弥

1 昨今、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人と人との密なコミュニケーションが
2 制限されている中で、国際交流事業において従来の形式を用いた交流を推し進めて行きた
3 い反面、見直された手段であるオンラインを使った交流も視野に入れた取り組みが必要で
4 す。災害においては近年、水害による被害が多発している現状があり、災害時の対応とし
5 て、それぞれの機能や役割をより有効なものへとするために、一般社団法人佐賀青年会議
6 所だけでなく他団体と連携・協力していく必要があります。

7 まずは、諸先輩方が1985年から継続されてきた姉妹JCである社団法人台南市新營
8 国際青年商會との交流が37年目を迎え、これまで以上の繋がりを強固なものにするため
9 に、佐賀青年会議所一同総力を挙げ、**新營JCメンバー**と佐賀の観光資源や伝統文化を体
10 験することで、より良い関係性を創り上げます。そして、新營JCと佐賀青年会議所の交
11 流だけでなく他団体を含めた交流をするために、合同で交流できる場を提供することで、
12 対外に向けて佐賀青年会議所のさらなる魅力を発信します。さらに、正確な意見交換を行
13 うために、オンラインを使用**しお互いに顔を合わせ協議することで、これまで以上に密な**
14 **コミュニケーションを図ります**。また、近年の災害発生状況を考慮すると、被災地の情報
15 や必要とされている物資を迅速に供給するために、平常時に他団体との連携を図りつつ知
16 識や意識を向上させ相互理解を深め協働することで、行政だけでなく佐賀青年会議所が率
17 先して他団体と連携を取りあえる関係性を創り災害時により機能する団体を目指します。

18 国際交流や災害対策を通じ、おもてなしの心や**災害に対しての連携することの難しさ・**
19 **喜びを体感し、40歳という限られた期間の中で、同じ志を持った他団体との連携を深め**
20 **たこと**で、改めてこの地元佐賀の素晴らしさ、人と人との出会いに感謝し、個人の成長に
21 つなげるとともに、現在（いま）を生き抜き次代へつないで参ります。

22 23 24 [事業計画]

- 25 1. 新營JC受入れ・会務交流会議の企画・運営（9月）
- 26 2. 裸ん行（大川）参加者への支援（2月）
- 27 3. 例会の企画・運営（3月）
- 28 4. A S P A C（台湾／台中）参加者への支援（6月）
- 29 5. J C I 世界会議（南アフリカ／ヨハネスブルク）参加者への支援（11月）
- 30 6. 会員拡大 拡大目標 委員会5名（通年）